

COMSi NEWS(こむの事業所通信)

2014.4 創刊号

Community Organization Managed for Social inclusion

誰もが働き、自分らしくいきいきと暮らすことをめざします！

NPO法人こむの事業所 就労継続支援A型事業所

創刊に向けて

代表 松藤 聖一

1970年代の終わりのころイタリアで精神科の病棟を廃止するための法律、バザーリア法が制定されて、精神障害者達の地域生活が始まったのですが、まだ偏見が強い時代で就職口がありませんでした。そこで自分たちで木製ブロックタイル張りの事業を始めます、今という社会起業です。

そのときの合言葉は、“やればできるさ” 英語では “Yes we can”。“できないこと”ではなく「できること」を見つけて、稼ぐことができる仕事にしようと立ち上がって協同組合を作り、今ではヨーロッパ全土にソーシャルファームとして広がっています。

「仕事を得にくい人々に働く場を提供する。」こむの事業所は、そのソーシャルファームの考えに立ち、たくさんの人に支えられてスタートしました。障害者就労継続支援事業A型として事業開始してもうじき3年、利用者でもある20人の障害者スタッフと20人の一般就労職員、その中にはひきこもりであった人、難病をかかえる人、高齢の人など「労働市場で不利な立場におかれた人」(英国ソーシャルファーム協会)もいて、総勢40人が働いています。

こむの事業所は、兵庫県の最低賃金時間給761円と通勤費を保障しています。障害者スタッフの大半は週20数時間勤務で、現在3人の職員が週30時間を超え、厚生年金、健康保険に加入できています。まず就労、次に社会保険の全部適用、そして暮らしが成り立つ賃金を実現することがステップアップの目標なのですが、

「稼ぐ」ことのむずかしさ、「稼げる」仕事を創る困難に日々向き合っています。

フレミラ宝塚、市立健康センターの清掃の仕事は、リーダー1人・知的障害者2人のチームが3チームと、巡回清掃など担当する一般就労職とが協力し合って毎日早朝7時から頑張っています。

駐車場の受付を担当するチームも土曜日曜も出勤して頑張っています。

食事サービス事業は、育成事業所とこむの事業所厨房、レストランホールを障害者スタッフの職場としていますが、こむの事業所厨房ではチーム制を取り入れるなど新たな試みが必要です。

西谷産の新鮮野菜や京都北山のお米などを販売しているこむの市場は、昨年補助金を得て陳列棚など店舗の備品、販売車がそろいました。日ごろ買って頂いているお客様には大変好評をいただいています。

一昨年度後半から取り組みを始めたパソコン修理事業は、昨年6月にはこむの事業所のアトリエ(2階)に事務所・工房を移転し、営業を展開しています。

「やればできる」アメリカでも障害者を「チャレンジド、挑戦者」と呼ぼう、働いて納税者になろうという運動が続けられています。

「やればできるさ」は世界の合言葉、チャレンジしつづけるこむの事業所でありつづけたいと思います。

事業のご紹介

食事サービス事業

レストランこむずの運営
めふフラザ・育成事業所の給食受託
ふれあいサロンへの弁当配達
おせち料理の調理販売

この度マリーアンジュ
の美味しいケーキもメ
ニューに入りました！
水・木のみですが、是
非一度お試し下さい。



西谷の無農薬野菜、
京都のお米、三陸の
海産物、どれも安心
とりピーターが増えて
いますよ！

こむの市場事業

無農薬・低農薬の野菜・米
三陸特産わかめ・ひじき等海産
その他各地の特産品等の販売

パソコン・電気製品修理事業

パソコン修理
カセットテープ・ビデオテープのデジタル化
その他お持ちこみ頂ける電気製品の修理

格安・丁寧に修
理します！ぜひ
ご用命下さい！



駐車場の仕事では、な
るべくお待たせしな
いことと、お釣りを間
違えないよう気をつ
けています。

駐車場管理事業

ボランティアセンター駐車場
フレミラ宝塚駐車場
こむの事業所駐車場

清掃業務

フレミラ宝塚の館内清掃
健康センター、口腔保健センター
の館内清掃

清掃の仕事は朝7時
から始まります。
冬の間はまだ暗いう
ちから出勤して頑張
っています！



こむの事業所トピックス

「レストランこむず」では、月曜日にビーフマンデーとして、隔週毎にステーキ又はハンバーグのランチメニュー(1,030円)を始めました。スープ、サラダもついてリーズナブル！

他にも日替わり定食(1,030円)、エビフライ定食(930円)・とんかつ定食(820円)・ビーフカレー(620円)、和食好きの方には日替わり松花堂弁当(720円)も食べやすく美味しいと評判です。

営業：月～金 11：30～13：30
(但しカレー、ハヤシライスは14：30まで注文OK)



ステーキランチ 1,030円



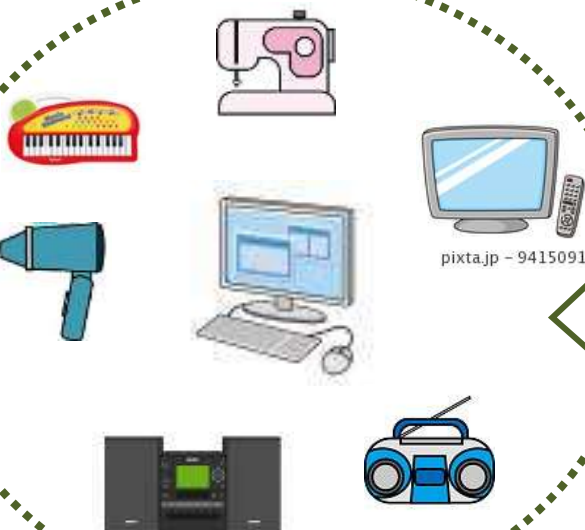
私たちが作っています！

こむの市場のお米は京都北山の豊かな自然、清らかな水、温かな人の手で育まれた美味しいお米です。品種は粘り・つや・香りが優れ弾力があり、さめても美味しいコシヒカリ！

京都北山の小野郷地区まちづくり協議会の人たちが少しでも安全なお米にしようと農薬を出来る限り少なくして作っています。

写真は稲刈りを終えたまちづくり協議会の人たちです。

コシヒカリ 5kg 2,100円



「こむの修理屋さん」では、パソコンを格安・丁寧に修理致します！

また、お持ち込み頂ければテレビ・ラジカセ・オーディオ等、様々な電気製品の修理もお受けしています。修理しようかどうか迷っていらっしゃる物があれば、無料で診断・見積もり致しますので、ぜひご相談ください。

3年前、イベントでこむの事業所が出店した際、登校が困難な生徒さん達にお手伝い頂きましたが、この度支援をされていた方から、この日の体験が自立に向けた大きな力になったとの嬉しい投稿を頂きました。

宝塚市教育委員会 学校教育部教育支援室
教育支援課中卒者支援担当 島村 和子

2011年7月28日夕暮れコンサートの屋台出店(焼きおにぎりを作って売る)に雇ってもらいアルバイトをしたことで、彼女たち(高1年齢・高2年齢)の自立への道が開けました。とても大げさなことと言っているように聞こえるでしょうが、本当にこの1日が現在の彼女たちの大きな自信とやる気の源となったのです。

小、中と不登校気味で苦しい日々を送ってきた彼女たちですが、高校進学を機に大きくリセットしようと密かに期待し、努めていました。その高校にも希望が持てなくなり、今まで以上に落ち込み、ひきこもり状態になってしまいました。

まずは昼夜逆転のひきこもり状況から脱出させたいと考えました。デイサービス「あさひ」へボランティアとして週に1回通わせてもらいました。フレミラ主催の思春期広場「わ」にも週に1回通いました。デイサービス「あさひ」は義務教育を終えた若者が出て行ける場所としてお願いしたのです。先例のないことですのでお互い手探りで進んでいきました。決してきちんと通えたわけではありません。行ったり行かなかったりという状況でした。また役に立ったかというと教えていただくことばかりで、かえって手間をとらせることのほうが多かったように思います。それでもあたたかく見守り、やさしく導いていただいたおかげで彼女たちの心はゆっくりゆっくり和らいでいき、少しずつ元気を取り戻していきました。そして本来持っていた力を呼び覚ましてくれました。力をつけてきた彼女たちはアルバイトがしたいと言い始めました。

賃金をいただいて働くことがそう簡単なことではないことを彼女たちはよくわかっていません。でも彼女たちに理解を示し使っていただけるところがあれば、一歩踏み出させてやりたいというのが私の願いでもありました。そういうところを探していたときこむの事業所を紹介してもらいました。自分たちからお願いしておきながら、いざとなるとなかなか代表者の方に会えず、実際お会いするのに数ヶ月もかかってしまいました。それでも根気よく「待っていますよ。」と励ましていただきました。面接の日も丁寧に説明しながら館内を案内し、彼女たちの緊張を解きほぐしアルバイトに対する不安を取り除いてくださいました。

アルバイト当日、とても蒸し暑い日でした。彼女たちは約束の時刻より早く来ていました。こんなことは珍しいです。緊張はしているようでしたが、体からやる気がみえました。始めは汗をだらだらかいて炭火の上のおにぎりを焼くことに必死でした。そのうち小声で「ありがとうございます。」が言えました。驚かされたのはコンサートが終盤に近づくころ彼女たちが他の人に混じって呼び込みを始めたことです。「みんなで力を合わせて全部売りつくそう」という事業所の仲間たちの心意気が伝わってきたからだと思います。自分たちも仲間なんだという思いが持てたのではないかと思うのです。工作中的の様子を見ていますと「暑いやろ。」とうちわで扇いでくれる人、「倒れるよ。ジュース飲みなさい。」と進めてくれる人。黙って手助けをしてくれる人。一緒に仕事をしたのは短い時間でしたが、人の気持ちのありがたさを知るには十分でした。また仕事の大変さと自分にかか

ってくる期待と責任を感じ取れたと思います。あんなに暑くて大変だったでしょうに、終わった時のふたりはとっても良い顔をしていました。ちょっと興奮しているようでもありました。ほんとに暑い熱いステキな一日でした。

何がどう作用したのか・・・この日を境にして彼女たちの言動に変化が見られました。例えば、アルバイト情報誌を頼りに応募したり面接に行ったりしました。現在も実際にアルバイトをしています。ヘルパーの資格を取ろうと試みたり、パソコン教室へ通ったり、復学について考えたり・・・間違いなく自分で歩き始めたのです。

それまでの行動は支援者である私にひっぱられたものでした。しかし「あさひ」で本来の自分を取り戻しました。この時期はとても大切な時期でした。それが基になって今日があるのです。

その次のステップとして社会への入口へ導く役割があります。厳しさ、自信、やさしさ、希望、やる気、勇気。あらゆるものが自分のなかでうまく総合され、自らの足で一步を踏み出す力となっ

ていくのだと思います。

今回、こむの事業所のみなさまのお力でふたりの若者が自らの足で一步を踏み出すことが出来ました。本当にありがとうございます。感謝しております。

ちなみに一人は復学し、塾に通ったりアルバイトをしたり、将来の目標に向かって奮闘中です。もう一人は家事全般を担い、おばあちゃんのお世話をしながら将来の自立のために時間の許す範囲でアルバイトをしてがんばっています。

決して終わったわけではありません。彼女たちが越えなければいけないハードルはこれからもたくさんあります。でもふたりはここまでこられたのです。きっと後戻りはしないと思います。わたしはそう信じています。



こむの事業所名称の由来とその意味

「こむの事業所」(こむず愛)は、ぷらざこむの仲間たちということと、その事業所(inc.)福祉文化の発信地(information center)という意味を持たせています。また、小文字の“i”はインクルージョンの頭文字であるとともに、その根幹には小さな「愛」を込めたいという思いを表現しています。また、英語表記は、ソーシャルインクルージョン「実現のためのコミュニティ組織(A Community Organization Managed for Social inclusion)」という意味を表す表記の頭文字をとって「COMSi」としています。

ボランティアさんに感謝!

こむの事業所では、レストランをはじめ色々な仕事をボランティアさんにお手伝いして頂いています。この写真はこむの市場の野菜搬入をして下さっているところです。



こむの事業所の成り立ち

阪神淡路大震災時に救援ボランティア活動の経験から、ボランティアの理念に立った福祉コミュニティを目指す財団法人(現・公益財団法人)プラザ・コムが設立され、福祉コミュニティプラザが作られました。

その一角に理念実現に用いるための用地があり、そこでどのような事業を営めば実現するのかを考えるために2007年10月に勉強会が始まり、研究活動そのものが福祉文化であるとの認識から福祉文化研究会と名づけました。

2008年6月には研究会に対して財団から正式に諮問をし、約1年間の研究を経てレポートをまとめ、NPO法人を設立して実施することになりました。

こむの事業所のめざすもの「みんなが働き、楽しく暮らす」

こむの事業所は、だれもが働き、自分らしくいきいきと暮らすことのできる地域社会を築くために働く場をつくり、暮らしを支えることをめざしています。

すべての人には働く権利があると考え、兵庫県の最低賃金を守るために、障害者の働く場として「就労継続支援事業A型」の事業に取り組み、ソーシャルファーム(社会的事業所)の考えに立って、ビジネスとして様々な困難を抱える人たちの働く場をつくります。一時的住まいの確保など生活サポートを行うことによって、社会的排除のない地域社会づくりをめざします。

ご支援をお願いします！

会員募集

お申し込みは下記事務局まで！

こむの事業所を運営しているNPO法人の会員になってご支援下さい！

正会員	個人	年	3,000円	法人・団体	年	30,000円
賛助会員	個人	年	3,000円	法人・団体	年	30,000円

※正会員は総会の議決権を有します。

ボランティア募集

- “レストランこむず” でホールサービスを支援してください。
- 障害のある人たちに音楽や美術などの文化活動を指導して下さいませんか？
現在実施している文化活動は、「ストレッチ」「フラダンス」「漢字教室」です。

特定非営利活動法人 こむの事業所

所在地：〒665-0867 兵庫県宝塚市売布東の町12-9

電話：0797-87-8330 FAX：0797-26-7834

E-mail：jimukyoku@npo-comsi.org

URL：<http://www2.ocn.ne.jp/~comsi>